



アジア連帯委員会（CSA）ホームページで振り返る 2023年9月～2024年9月事業と活動ダイジェスト

目次

2023.09.27	▶▶ 第43回定期総会を開催	2
2023.10.23	▶▶ CSA事務所紹介	3
2023.11.28	▶▶ 第26番目小学校建設調印式	4
2023.11.30	▶▶ 「世界遺産の街」ルアンパバーンの魅力	5
2023.12.11	▶▶ UAゼンセン オンライン報告会に参加	6
2023.12.18	▶▶ サンティパープ高校へ救援物資を贈呈	7
2024.01.29	▶▶ 2024年ワーキング・スタディ・ツアー報告その1	8
2024.01.31	▶▶ 2024年ワーキング・スタディ・ツアー報告その2	9
2024.02.22	▶▶ ラオスコーディネーターの交代	10
2024.03.29	▶▶ アジア連帯委員会（CSA）第27回評議員会開催	11
2024.04.16	▶▶ ベトナム建国記念日祝賀交流会へ参加	12
2024.04.28	▶▶ メーデー中央大会出展	13
2024.05.16	▶▶ サンティパープ高校寮 卒寮式出席と契約更新	14
2024.05.20	▶▶ CSA寄贈 第26番目新小学校建設状況点検	15
2024.05.27	▶▶ Laos Festival 2024	16
2024.06.27	▶▶ 第44回定期総会に向けて	17
2024.07.08	▶▶ ラオス留学生たちとの交流	18
2024.07.17	▶▶ 駐日ラオス大使館定例訪問	19
2024.09.04	▶▶ 2023年度募金へのお礼	20



2023. 09. 27 第43回定期総会を開催



澤田会長挨拶



連合代表挨拶



国際労働財団代表挨拶

9月27日、連合本部においてアジア連帯委員会（CSA）第43回定期総会を開催しました。コロナが5類に引き下げられたこともあり、沢山の評議員にご参集いただき華やかな総会となりました。冒頭、澤田会長は、団体・個人会員の皆様の物心両面のお支えにより事業が継続できていることへの感謝と、三本の柱である主要事業について触れられました。ご来賓には連合本部より清水事務局長、国際労働財団より小川副事務長にご臨席いただき激励のご挨拶を受けました。また、CSA元副会長の渡邊様にも傍聴としてご臨席いただきました。

窪田議長（自治労選出代議員）の進行のもと山崎事務局長より「2022年度事業報告」「2022年度決算報告を」大瀨監事より「会計監査報告」を受け、承認されました。協議事項については第1号議案「2023年度事業計画」、第2号議案「2023年度予算」を山崎事務局長より提案し可決されました。また、寺澤常任理事より提案のあった第3号議案「役員の一部改選」では、新たに3名の役員が選出され満場の拍手で確認をし、併せて、退任された3名の役員に対し労いの拍手を送りました。

窪田議長の采配により時間通り総会が無事に終了しました。司会を務められた山根木副会長より、ワーキング・スタディ・ツアーで訪れたラオス国の子どもたちの笑顔が忘れられない、とても良い体験ができたことを閉会の挨拶の中で紹介がありました。

今日から2023年度がスタートを切りました。ご参集された全員で活動を盛り上げていきましょう。新年度もよろしく願いたします。



2023. 10. 23 CSA事務所紹介



事務所入り口



事務所内掲示物



窓越しの景観

10月も後半に入り東京は一気に涼しくなりました。今朝の出勤時は薄手のコートが欲しくなるような気候です。さて、今回の記事は趣向を変えて、アジア連帯委員会（CSA）事務所を紹介させていただきます。

事務所は都営三田線芝公園駅から徒歩1分、JR田町駅からは徒歩10分弱の日比谷通り添い、友愛会館ビルの14Fにあります。事務所からの見晴らしはとても良く、東京タワーや増上寺も望めます。もう少しすると銀杏も色づき見頃を迎えるかと・・・

事務所内は会員の皆様のお力添えにより40年以上にわたり支援をしてきたラオス・タイ政府からの感謝状や、これまで25校を建設・寄贈したラオス小学校の引き渡し式のパネルやその模様を取り上げた現地新聞を掲示しています。会長、副会長、事務局長、会計の計4名が専従事務局で、総会で確認された事業計画を進めています。現在は、11月と来年1月に予定しているラオス視察に向けて現地コーディネーターや省庁とのやり取りを中心に取り組んでいます。

会員はもちろん、誰もが気軽に立ち寄れる事務所を目指しています。友愛会館に会議などで訪れる、あるいは、お近くにお越しいただいたときには、ぜひ、お顔を出していただけましたら幸いです。いつでも歓迎します。



2023. 11. 28 第26番目小学校建設調印式



U Aゼンセン坂田副会長挨拶



参加者を一堂に会し



広大な建設地

11月24日、ラオスビエンチャン市内において、第26番目となる小学校建設に関わる調印式が行われました。本建設は、CSA会員であるU Aゼンセンの絶大なるご支援により実現することができました。建設地は、世界遺産の街としても名高い、ルアンパバーン県中心部より車で約80分の山岳地、パクウー郡・ハッパン村になります。

調印式では、U Aゼンセン坂田副会長より今日までのご尽力への感謝、組織で取り組んでいる社会貢献活動（ボランティア活動）の紹介、新小学校を寄贈できる喜びとそれが地域の発展につながり、子供たちの未来が拓けることへの期待等を述べられました。続いて、CSA山崎事務局長、ラオス教育・スポーツ省局長、ルアンパバーン県教育・スポーツ局長と挨拶は続き、その四者で建設に関わる詳細を明記したMOU（覚書）に署名と押印をし、小学校建設プロジェクトがスタートを切りました。建設会社の計画によると、2024年8月末までに完成、新学期となる9月より近隣の子供たちの受け入れを目指します。

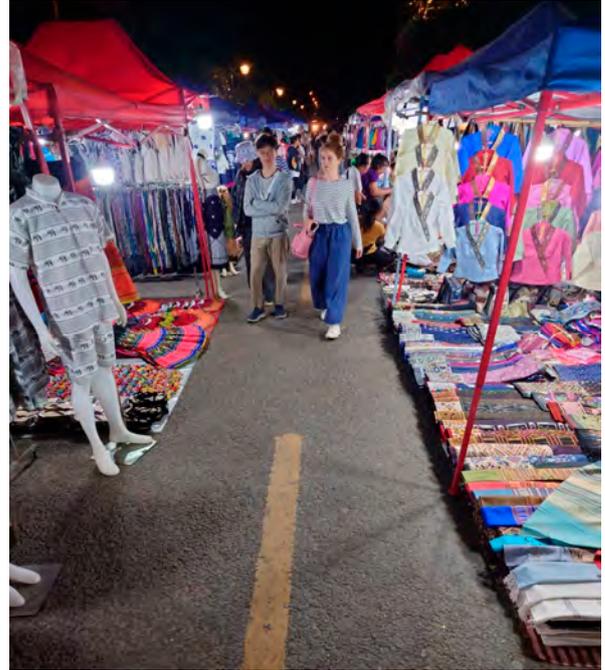
二人の教育・スポーツ局長の話しを聴きあらためて確認できたことは、ラオスにおける教育の課題は多く、ここ数年では教員不足等が挙げられています。また、小・中学校は義務教育でありながら、何らかの事情で通えない、あるいは、ドロップアウトしてしまう子供たちが散見されること、特に、地方部が顕著のようです。

新たな小学校の誕生がこれらの課題に対し少しでも改善のお手伝いとなり、来年の9月以降に予定する引き渡し式では、笑顔で小学校に通う子供たちと会えることを願ってやみません。

2023. 11. 30 「世界遺産の街」ルアンパバーンの魅力



托鉢には幼い修行僧も



ナイトマーケット



メコン川に沈む夕陽

11月28日付で、第26番目の小学校をルアンパバーン県に建設・寄贈する記事を書きましたが、今回は、ルアンパバーンの魅力について紹介します。小職は今年になりワーキング・スタディ・ツアーなどで3回訪れましたが、その都度、新たな発見があり喧噪感の無い雰囲気を楽しんでいます。

ルアンパバーンは、首都ビエンチャンから飛行機で約45分、ラオス北部に位置する、素朴な雰囲気を今も残す古都です。その穏やかで美しい街並みは、1995年に世界遺産に登録されました。日本でいえばさながら京都と言えるでしょうか。アメリカやヨーロッパからの、仕事を一段落したであろう年配のご夫婦をよく目にします。

ルアンパバーンの風物詩のひとつに「托鉢」があります。托鉢とは、僧侶が鉢を持って街中を歩き、人々から施しを受け回る修行のひとつです。早朝5時過ぎには、オレンジ色の袈裟に身をまとった僧侶や修行僧をあちこちで見かけることができます。観光客も見学や体験ができ、幻想的な雰囲気を味わえます。

その他、フランスの植民地時代に建てられた王宮博物館、メコン川の夕陽を拝める絶景スポットプーシーの丘、民芸品や織物が立ち並ぶナイトマーケットなども評判の高い観光名所と言えます。

「ラオスは聞いたことはあるけれど行ったことはない」の声が大半ですが、一度訪れるとその魅力にはまること間違いありません。私もそうですが、これまでのワーキング・スタディ・ツアー参加者のアンケートからも明白です。歴史と文化、美しい自然に触れてみてはいかがでしょうか？

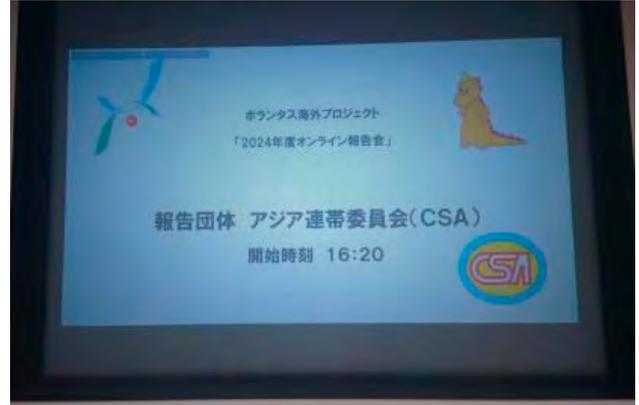
<https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=145Ee80JNtg>



2023.12.11 UAゼンセン オンライン報告会に参加



山崎事務局長プレゼン



スクリーン



報告会場

12月8日、団体会員であるUAゼンセンが定例開催している「ボランティアオンライン報告会」に山崎事務局長が出席しました。UAゼンセンでは、社会貢献活動をボランティア活動と称し、阪神・淡路大震災が発生した1995年から今日まで、継続性をもって活動を展開しています。

本報告会にはUAゼンセンと連携をしている、シェア、ACE、シャプラニール、オイスカのNGO・NPO団体の代表者も参加、現地スタッフからの報告も交えて、それぞれの団体が進めている活動の紹介と、視聴者との質疑応答が行われました。

山崎事務局長は『アジア連帯委員会（CSA）の主要事業と課題』というテーマでプレゼンを行いました。冒頭に、大半の方が未知の世界であるラオスの実情と魅力を紹介し、主要事業のひとつである教育支援については、先月、UAゼンセン・CSAとラオス政府の間で執り交わされた「小学校建設に関わる調印式」の様態などを画像や動画で振り返りました。

質疑応答では、若者に対する広報活動にInstagramやTikTokを取り入れることも一考という意見や、建設した小学校に子供たちを集めるためにどんな努力をするか、また、学校建設のプロジェクトに寄付金で支援をしたいがその方法を知りたい、というたいへん嬉しいメールもいただきました。

視聴者の中には、CSAの組織と活動を今回初めて知った方も少なくないと思います。今年度の活動計画にも謳っているように、CSA活動の説明機会を増やし諸事業について理解を広める取り組みを行うことは活動の充実強化につながります。これからも事務局として、CSAを身近に感じていただけますよう努力してまいります。



2023. 12. 18 サンティパープ高校へ救援物資を贈呈



頼りになるコーディネーター
右/チャオ氏 左/ヌーソン氏



先輩ヌーソン氏が贈呈



進んで搬入を手伝う寮生たち

今年度の事業計画にも謳っている中古衣類に代わる物資支援について、現地コーディネーターであるチャオ氏とヌーソン氏が、12月16日、ラオスでも屈指の優秀校でありかつてヌーソン氏も学生時代を送ったサンティパープ高校寮を訪れ、寮生にさまざまな物資を手渡しました。

学びたくても高校が遠くにあり通うことができない、家庭の事情で勉学を断念せざるをえないというラオスの深刻な教育状況を打破するべく、CSAは2002年にサンティパープ高校に寮を建設・寄贈しました。以来、寮の運営と学生たちの生活支援に積極的に取り組んでいます。

物資の中身については学生たちが必要とするものを事前に調査をし、今回は、レトルト食品、インスタント麺、卵、缶詰、シャワーSOAP、サッカーボール等を届けましたが、軽トラの荷台に積んだ物資を学生たちが嬉しそうに運び、寮のスペースに箱を積み上げている画像や動画も届いています。

かつての中古衣類はその量が膨大であること等の理由から保健省を通じた寄贈のみでしたが、今回のように現地の状況をよく知るコーディネーターと連携をすれば、きめ細かい対応ができ、贈る側にも贈られる側にもメリットが生まれるのではないのでしょうか。年明けのワーキング・スタディ・ツアーの際に、寮生たちから感想を伺い今後の支援に役立てていきます。

CSAは、「救援物資事業」「小学校建設・補修事業」「教育支援事業」を3本の柱として進めています。併せて、これら事業を支えていくための募金活動も実施しています。詳細はこのHPにも掲載をしていますので、ご支援いただけたら幸いです。



2024.01.29 2024年ワーキング・スタディ・ツアー報告その1



玄関前で局長を囲んで



紙飛行機作り体験



輪になって準備体操

1月20日から27日まで『2024年ワーキング・スタディ・ツアー』を実施、7組織10名でラオスとタイを視察してまいりました。団員の多くは東南アジアへの渡航が初めてで緊張と不安を隠せませんでした。体調を崩すこともなく現地の文化や実情を肌で感じた有意義な8日間となりました。

首都ビエンチャンの3日間では、教育・スポーツ本省局長室にてカンパス局長と面談、サンティパーブ高校寮への支援（今視察の後半に訪問）に対し感謝の意を述べられました。私は局長とお会いするのは3回目ですが、いつも気さくに声をかけてくれます。次に、在ラオス日本国大使館で古賀一等書記官よりラオスの魅力と現地情勢をうかがい、それに基づき経済やインフラ等について活発な意見交換をしました。私が印象深かったのは「ラオスは外国依存体質が強い国」という言葉ですが、ラオスの方たちとの会話の中でそれを感じるが多々あります。今後支援をしていくうえでのヒントとなりました。

午後からは、車で約1時間のところに位置するホンガム村小学校を訪問。ここは1996年にCSAが建設、その後、3回にわたって屋根などの修理をしています。メインは子供達との交流なので、サッカー班と折り紙班に分かれて自由に遊びました。広いグラウンドを裸足で新しいボールを追いかける子供たちは実に楽しそう、砂ほこりまみれになったメンバーも達成感があつたようです。次回は動きやすい服装にしましょう。

3日目となり、メンバーもより打ち解けた様子で笑顔が絶えません。ビエンチャン最終日の夕食は、メコン川が臨めるホテルの屋上でラオス料理とラオス産ビール「ピアラオ」で乾杯！皆さんチャレンジャーで辛いものも虫も口にします。アルコール量も会話も弾みビエンチャンの夜は更けていく・・・報告その2に続く。



2024.01.31 2024年ワーキング・スタディ・ツアー報告その2



寮生たちから大歓迎を受けて



和やかに歓談がスタート



J I L A F 関口所長を囲んで

折り返しの1月23日、ビエンチャンから北部に位置するルアンパバーンに移動、その穏やかで美しい街並みは1995年に世界遺産に登録された古都であり、アメリカやヨーロッパからの観光客で賑わいます。早朝の風物詩である托鉢、クアンシーの滝、プーシーの丘など首都ビエンチャンとは異なった雰囲気に触れ、メンバーも満足な様子です。

公式訪問では、2002年より寮の運営支援を継続している国内屈指の優秀校サンティパーブ高校へ。花束を持った歓迎ぶりに少々照れ臭い気もします。まずは先生から、これまでの物資・教育両面にわたる支援への御礼とこの1年間の報告を受けました。優秀な学生が多いことがよくわかります。また、学生たちとの会話では「皆様のご健勝をお祈りいたします」と大人びた流暢な日本語を話す学生が居て驚きました。聞けば、ネットなどを駆使して覚えたようで、勉学に向き合う姿勢には感動します。

続いて訪問した県の教育・スポーツ局では、ボンジェット局長（国会議員も務める）より、このルアンパバーン県ハッパン村にCSA第26番目の小学校（UAゼンセンより寄贈）を建てることに對し改めて感謝の言葉と、村民も待ち望んでいるとの報告も受けました。建設状況については、定期的に現地コーディネーターより報告を受けるとともに、CSAとして5月に視察を予定、8月に完了、11月の引き渡し式を目指します。

2日間のルアンパバーンを終えバンコクへ。のんびりとしたラオスとは違い交通渋滞にはうんざりです。在タイ日本国大使館では鈴木書記官（連合アタッシュ）らとタイの経済情勢などについて意見交換をし、J I L A Fバンコク事務所では関口所長からJ I L A Fの組織と活動についてご教示いただきました。また、CSAとして抱えている課題についてもアドバイスをもらいました。さらに連携することが相乗効果につながると確認でき、私自身、たいへん有意義な訪問となりました。

東南アジアへの渡航は、腹を壊して辛い思いをし、食べ物が合わず苦勞する方が少なくないと聞いているものの、今回のメンバーはそれとは全く無縁で元気に楽しく8日間を謳歌しておりました。現地を見て聞いて、たくさんの気づきがあったことでしょう。ぜひ、組織でも活かしてほしいです。

こうして2024年ワーキング・スタディ・ツアーは無事に終了することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。なお、3月に詳細をまとめた冊子を発行いたしますので、併せて、ご覧ください。



2024.02.22 ラオスコーディネーターの交代



2023年W S Tでのフンペン氏



定期的なビデオミーティング



チャオ氏ヌーソン氏自己紹介（2024W S T）

CSAチーフコーディネーターとして約20年間お世話になったフンペン氏が勇退をされました。私たちが安全で快適に視察ができたのも彼のおかげです。長きにわたるご貢献に心から感謝を申し上げます。

今年のワーキング・スタディ・ツアーからは、フンペン氏の後任としてチャオ氏を迎えました。昨年5月のナラオ村小学校（CSA第25番目校）引き渡し式において、式典の通訳を務めていただいたのが縁となり、今年度の主要事業計画である第26番目校の新校舎建設準備の大半を担っていただきました。本職は公務員であり、省庁などに顔が利くのも強みです。

現在、ラオスコーディネーターは2名体制で、もう1名はヌーソン氏です。彼は2019年のワーキング・スタディ・ツアーからお手伝いをいただき、CSAが運営支援しているサンティパープ高校寮第1期卒業生です。4月に勤めている商社の出張で来日するという情報を得ておりますので、大いに歓迎したいと思います。

コーディネーターの役割は、ワーキング・スタディ・ツアーをはじめとしたラオス視察時の通訳、訪問先の調整、観光名所のガイド、食事処の紹介などですが、先輩・後輩の関係である両氏は、こまめに連絡を取り合い熱心に対応してくれます。また、私と3名で定期的にLINEビデオ通話ミーティングをし、課題を共有するようしておりSNSの便利さをあらためて痛感しています。

ベテランのフンペン氏が抜けた穴を若いチャオ氏とヌーソン氏がしっかり補ってくれることはCSAとしてもたいへん心強いです。今後とも、日本とラオスの懸け橋になっていただくべく彼らとの人間関係を築いてまいります。



2024. 03. 29 アジア連帯委員会（CSA）第27回評議員会開催



澤田会長挨拶



杉山常任理事WST報告



松本評議員WST報告

3月28日、連合本部においてアジア連帯委員会（CSA）第27回評議員会を開催、2023年度前半の事業を振り返るとともに、会計・会計監査報告、3つの議案の審議と後半の主な日程について確認をしました。また、昨年定期総会終了後に人事異動の関係で新役員となられた、北野副会長（連合副事務局長）、杉山常任理事（連合連帯活動局長）、服部常任理事（連合東京副事務局長）を紹介しました。

澤田会長は冒頭の挨拶で「能登半島地震での被災者へお見舞い申し上げます。そして、復興へ向けた動きが早まることを祈ります」と述べられ、1月に実施したワーキング・スタディ・ツアーの成功と、ラオスの小学校新校舎建設ならびに補修が順調に進んでいることに触れ、事業への協力に対し感謝を伝えられました。

主な報告事項では、山崎事務局長より、2024ワーキング・スタディ・ツアー報告について、参加者の協力により作成した冊子を基に概要と所感を紹介した後、団長を務められた杉山常任理事と松本評議員（基幹労連 東亜道路労働組合中央執行委員長）から成果と課題などの報告を受けました。そして、次回以降のツアーへの積極的な参加を呼びかけました。

特筆すべき議案は、第2号議案「救援衣類を送る運動の終了と今後の方向性について」です。第24回評議員会（2022年8月24日開催）で当面の中止としていた本運動ですが、インドシナ難民とアジアの困窮する人々への支援について当初の目的が達成できたこと、コロナ禍以降輸送への悪条件が続いていること、現地ニーズに変化が起きていることなど、費用対効果の観点からも終了とすることが適切と判断し、新たな支援に切り替え、その具体的な支援内容は、会員の皆様より意見集約し第44回定期総会（9月25日開催）で提起することを審議し可決しました。

第1号議案「2025年ワーキング・スタディ・ツアーの実施について」と第3号議案「第44回定期総会の開催について」も可決しました。最後に、今回出席できず委任をされた2名の評議員よりいただいた意見を紹介し、第27回評議員会は無事に終了いたしました。



2024. 04. 16 ベトナム建国記念日祝賀交流会へ参加



山本会長挨拶



先祖礼拝式



リニューアルしたロゴ

4月13日、JICA地球ひろばにおいて、恒例であります、ベトナム建国記念日祝賀交流会が開催され山崎事務局長が来賓として参加しました。この集いは、日本在住ベトナム人の各世代の結束と相互扶助精神の向上を図ることを目的としており、例年より若い方の参加が多いのが印象的でした。

昨年10月に新会長に就任された山本香さんは「本日は故郷を思う大事な日です。協会は多様性にも重視し新執行部で一致団結して活動を進めます。また、今日まで支えていただいた日本の皆様へ敬意を表します。」とベトナム語と流暢な日本語で挨拶をされました。

伝統の先祖礼拝式が執り行われた後に、レー フック ダイ幹事長代行より、年間の活動や様々なイベントの紹介があり、興味深く拝聴いたしました。「今までのつながりを継続するとともに、コミュニティを大切にしたい新しい活動にもチャレンジする」と決意を述べられましたが、会長同様、日本語が堪能で感心したところです。

長い間、協会副会長でありCSA評議員を務めていただいた南海さんが昨年逝去され、9名の執行部で新たな体制でスタートを切りました。併せて、協会のシンボルであるロゴも一新されたようです。CSAとしても、協会からのリクエストである運営面などでお手伝いをさせていただきながら、一層、連携を深めていきたいと思っております。



2024. 04. 28 メーデー中央大会出展



CSAブース



募金への返礼品



早速スカーフを着用

CSAは4月27日代々木公園にて開催された連合第95回メーデー中央大会に出展、活動の歩みと直近のニュースをパネルで紹介をするとともに、ラオスへの「物資と教育支援」を目的とした募金活動を実施しました。朝方の小雨は心配でしたが、風もなく穏やかな1日となりました。

お気持ちをいただいた方には、漏れなくラオスの民芸品などを返礼としてお渡しいたしました。一番の人気はラオス視察の際、ルアンパバーンのナイトマーケットで仕入れたTシャツで、早い時間に品切れとなりました。もちろん、私もそのTシャツを着て皆さんをお待ちしました。

式典が終わるとブースはさらに活気付き、ラオスの地ビール・Beerlaoや手作りのポーチ、掘り出し物のショールやスカーフなども皆さんの手に渡りました。多くの方にお立ち寄りいただいたおかげで、募金も昨年以上の実績を上げることができました。ご協力に感謝申し上げます。

今年のスローガンは「連帯の力で平和と人権を守り誰もが安心して暮らせる新たなステージへ！」と「被災地の復旧・復興に向けてみんなで支え合い・助け合おう！」です。社会貢献・国際貢献は労働組合の運動でも重要度が高く、関心を持つ方が増えています。私たちCSAもあらためてラオスを中心とした未開発の国に対し、ニーズのある支援を継続してまいります。



2024.05.16 サンティパープ高校寮 卒寮式出席と契約更新



女子卒寮生による美しい舞い



成績優秀学生への記念品贈呈



寮契約書の調印を終えて

サバイディー♪（ラオス語の挨拶で時を問わず使える）

5月14日から18日にかけて、ラオスにて活動をしています。目的は、サンティパープ高校卒寮生30名の卒寮式への出席、その高校寮支援のための契約書の更新、CSA 26番目となる新小学校の建設進捗状況点検の3点です。今視察にはCSA田中常任理事（UAゼンセン）が同行、ルアンパバーンに到着した時の2人の一声は「暑い！」

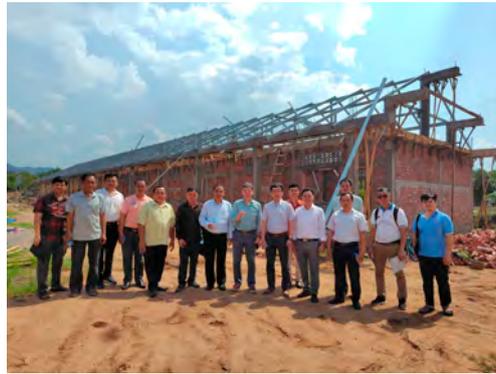
空港で、コーディネーターのチャオ氏、ヌーソン氏と合流し早速サンティパープ高校へ向かいましたが、今回も寮生や先生たちが列をなし我々を「サバイディー」と笑顔で迎えてくれました。また、とても綺麗な薔薇の花束をいただき少々照れ臭かったです。卒寮式では、校長先生と寮管理の先生の挨拶を受け、山崎事務局長は「私たちの支援がこの寮で大いに役立っていることを嬉しく思います。学生たちが勉学に励み楽しく高校生活を送れることを日本より応援しています」と述べられました。

その後、卒寮生より歌や歓迎の舞が披露され、卒寮生全員にCSAロゴ入りのボールペンを贈呈、また、過日実施された試験でラオス国内トップを獲得した学生と優秀な成績を収めた3名には、記念品をプラスしました。残る時間を学生たちと私たちのコミュニケーションに充てたところ、日本にたいへん関心があることをあらためて痛感しました。支援していくうえでのヒントになると考えます。

明けて15日は、ルアンパバーン県教育・スポーツ局を訪問し契約書を取り交わしました。2024年7月から2027年6月の3年間、CSAとして運営面全ての支援を継続すること、学校と局がお互い連携し学生たちが安心して勉学に励むことができるようをサポートすることなどを謳ったものです。改善面としては、食べ盛りの学生たちのために少しですが食費をアップしています。お互い中身を確認し、局長と校長先生、山崎事務局長の3名で署名をし（ビエンチャン本省である局長のサインは後日）無事に調印を終えました。



2024. 05. 20 C S A 寄贈 第26番目新小学校建設状況点検



建設中校舎前で関係者一同



ナラオ村小校長先生たちと



蘇ったパホム村小校舎

5月16日付ニュースにも掲載の通り、今視察の目的のひとつである第26番目校（U Aゼンセン寄贈）となるハッパン村新小学校の建設状況を点検しました。現地では、ルアンパバーン県教育・スポーツ局長をはじめ、ハッパン村村長、建設会社社長らが我々を出迎えてくれました。

昨年11月、U Aゼンセン代表団と山崎事務局長が下見に訪れた際は、整備されていない広大な土地が広がっているだけでしたが、12月から着工を開始し5つの教室と職員室、別棟に多機能トイレを含めた4つのトイレを建設している状況を見て、完成した際には村の子供たちが勉学に励み走り回る姿を想像すると嬉しくなります。

点検後のミーティングでは、局長と村長からあらためて感謝の言葉をいただき、合わせて、幼稚園児も一堂に会したいという将来像もお聞きしました。また、6月1日に村民や入学予定の子供たちと校庭に記念の樹木を植える計画があることも紹介いただきました。11月に予定している引き渡し式で、再びこの地を訪れることが楽しみです。

今回は、1年前に引き渡し式を実施したナラオ村小とクラウドファンディングで補修をしたパホム村小へも足を運びました。ナラオ村はその敷地に小学生から高校生までが混在しておりとても活気にあふれていました。一方、パホム村小は大自然に囲まれた小さな学校で、若い校長先生が好印象です。そして、懸案事項であった天井とトイレの修繕も確認することもできました。

3か所の小学校を見て回り、C S A事業のひとつ『小学校建設・補修事業』が子供たちが将来に希望を持てる役割を担っていること、地域社会の発展にも寄与していることをあらためて痛感した次第です。



2024.05.27 Laos Festival 2024



現地ナイトマーケット風に展示



お目当てのビアラオ発見！



センさんと友人と一緒に

5月25日～26日、代々木公園・イベント広場にて開催されましたLaos Festival 2024（ラオフェス）へ、CSA森前常任理事（連合）と一緒に足を運びました。コロナ規制が緩和された昨年より復活、今年で11回目の開催となります。会場には予想した以上にたくさんのラオスファンが詰めかけており、時折耳にするラオス語に、何か懐かしさを感じました。

ラオフェス実行委員長の荒井氏（学校法人さくら高等学校理事長）はセレモニーの挨拶で、32年前に初めて訪れたラオスは電気もガスも水道もない生活であるにも関わらず、子供たちが輝き、家族の絆が強く、村が一体となって子供たちを育てていたことを体感し、小学校建設活動の意義を感じたそうです。以来、さくら小学校は8校の小学校を建設しています。

その後、会場内を散策すると、民芸品や食品販売の他、伝統舞踊・バーシー儀式の体験、ラオス語講座など60に及ぶブースが並び、ラオス本国からの出店もありました。『日帰りで行けるラオス』のキャッチコピーの通り、日本でラオスの魅力を知ることができます。私の一番のお目当ては、酷暑のラオスで活動する際に喉を潤してくれる「ビアラオ」です。現地価格の約4倍ではありましたが、美味しくいただきました。

在日ラオス人留学生協会のブースでは、去年のワーキング・スタディ・ツアーの時に一緒にサンティパーブ高校寮生のOBであるセンさんとの再会が叶いました。国費で留学をされているだけありたいへん優秀で、日本語と日本の文化を勉強されているようです。教育の課題を多く抱えるラオスの将来のために、そして、センさんの後を継ぐ子供たちのために、若い彼の活躍を日本からも応援します。



2024. 06. 27 第44回定期総会に向けて



建設中のハッパン村小学校



W S T ラオス大使館訪問



高校生寮契約書調印

2023年度の事業も第4コーナーを回り、第44回定期総会（9月25日開催）の準備に取り掛かる時期となりました。7月からは2024年度事業計画、ならびに、予算についての案をまとめていきますが、そのためには、今年度の活動を振り返る必要があります。

事業の3本柱である「救援物資事業」は、3月開催の評議員会において救援衣類を送る運動に終止符を打ち、新たな物資について、国際NPO団体や現地コーディネーターからヒントをいただきながら選定をしているところです。「小学校建設・補修事業」は、2年連続で新小学校の建設に着手することができ、11月の引き渡し式に向けて調整をしています。「教育支援事業」は、サンティパープ高校寮の運営支援契約書を更新、向こう3年間の支援継続について双方で合意しました。

その他、これら3事業の点検と現地関係者との交流を目的としたワーキング・スタディ・ツアーの実施、会員組織におけるCSA事業の広報、事業を進めるにあたっての募金活動も順調です。一方、積み残した案件もいくつかありますので、残り3カ月で検証をし、次年度に活かしていきたいと考えています。なお、総会では、2024～2025年度役員の変更についても提案いたします。

定期総会までの日程

- ・ 8月28日 第54回常任理事会
- ・ 8月末～9月初 会計監査
- ・ 9月25日 第55回常任理事会、第44回定期総会



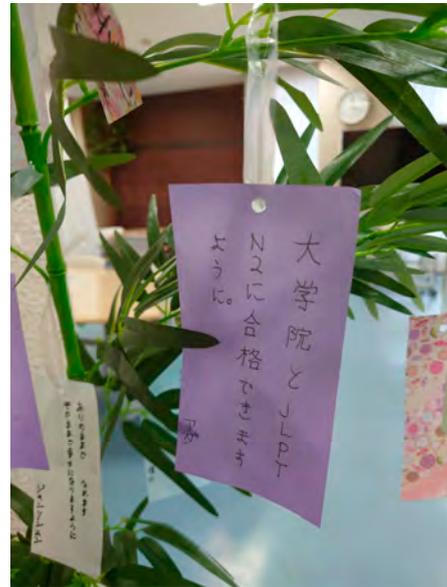
2024.07.08 ラオス留学生たちとの交流



相互に質問タイム



9月の再会を約束して



日本語で星に願いを

7月1日、独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）が運営する「日本語教育センター」を山崎事務局長が訪問しました。ここでは、優秀な外国人留学生を積極的・戦略的に受け入れるために、日本留学情報の提供、日本語教育・進学予備教育の実施、留学生同士の交流推進等、留学前から留学後までを通じて支援をしています。

1983年以来今日まで、約28万人の留学生を受け入れていますが、9割以上はアジアの出身で、中でも、中国からの留学生が4割を占めます。また、国費による留学生は9千人程度で圧倒的に私費による留学生が多いことがわかります。訪問当日も共有スペースで、さまざまな国の留学生が母国語と日本語を交えながら談笑しているのを見て、とても微笑ましく感じました。

担当教諭より教室に案内をされ、今訪問の目的である、ラオス留学生との交流タイムが始まりました。まずは11名の学生たちから、名前、出身県、好きなスポーツや食べ物等、日本語で自己紹介がありました。これを受け山崎事務局長から、CSAの組織概要と、5回の渡航で感じたラオスの印象を述べましたが、ラオス語で伝えられたらもっと盛り上がったかと…

ラオスの学生たちが勤勉であることはサンティパープ高校寮を訪問する度に痛感していますが、留学生たちも同様に試験を控えていることもあり、休みの日も勉強に明け暮れているそうです。先生から「皆さんサッカーが好きならチームを作ったらどうですか」の提案には、まんざらでもなく笑顔で応えられていました。実現できるように応援したいです。

次代を担う若者たちが親元を離れ見ず知らずの地で、自分と家族、母国のために研鑽を積む姿には頭が下がります。ラオスの大きな課題に『教育』がクローズアップされていますが、少しでも改善できるよう今回お会いした留学生たちに期待をするとともに、CSA事業に掲げる「教育支援」を着実に進めていくべきとあらためて感じた次第です。



2024.07.17 駐日ラオス大使館定例訪問



西麻布のラオス大使館入口



書記官（右から2人目）を交えて



ボウリング大会トロフィー

CSAの活動強化のひとつに、駐日アジア関係大使館との連携強化と拡充を挙げています。ワーキング・スタディ・ツアー時には在ラオス日本国大使館を訪問し、ラオス国内での取り組みや課題について共有、国内では定期的に駐日ラオス大使館を訪問し、教育・物資支援についてを中心に意見交換を行っています。

7月16日、鈴木副会長と山崎事務局長で、昨年に引き続き駐日ラオス大使館を訪問しました。対応いただいたハッタコーン書記官とは、これまで2回お会いしていることもあり、ざっくばらんに意見交換をすることができました。訪問の目的は、この1年間の事業報告と今後の取り組みへのヒントをいただくことです。

書記官は「小学校建設」について大いに関心を示され、CSAが現在着工中のものを含めて26校の建設実績があり、その経費は会員組織の会費や募金のみから拠出していることに驚かれています。具体的な支援金額についても尋ねられましたので、この2年間で実施した2校の小学校建設、1校の補修、サンティパープ高校寮の運営費などを説明し、大使や参事官との共有を申し伝えました。また、救援衣類に代わる物資の選定について私たちの案を伝え、後日、返答をもらうことにしました。

おわりに書記官から、今後、何かお手伝いできることがあれば遠慮なく言って欲しいと心強い言葉も頂戴しました。来年は、日ラオス外交樹立70周年を迎える節目の年になります。CSAも引き続き、会員組織と連携を取り、現地が求める支援を検討し取り組んでまいります。



2024. 09. 04 2023年度募金へのお礼



キャタピラー日本労組より目録



メーカーでの募金活動



UAゼンセン宮城より目録

台風・豪雨被害を受けた地域へのお見舞いを申し上げます。

CSA2023年度の事業もカウントダウンに突入、今年度も団体会員・個人会員の皆様よりご理解とご支援を受け、無事に9月25日の総会を迎えられそうです。

「救援物資事業」「小学校建設・補修事業」「教育支援事業」これら3つの事業の継続と充実に向け、年間を通じて募金活動に取り組んでおりますが、おかげさまをもちまして、順調に推移をしていることをご報告し、あわせて、感謝を申し上げます。ありがとうございます。ワーキング・スタディ・ツアーなどで現地を訪れた時、その募金が活かしていることを実感します。

次年度も引き続き募金活動に取り組みますが、定期総会で確認予定の各種募金の使途を明確にし、現地からの要望を検証したうえで可能な限り応えていきたいと考えております。また、前年度初めてトライをしたクラウドファンディングについても、状況を判断し検討してまいります。これまで同様、ご協力をよろしくお願いいたします。